

2017/3/19

(日々雑感 54)



何か事が起こったとします。我が国は法治国家ですから、例えば、民事、刑事に関わる何かだとします。

そんなことは、日頃の生活に於いて、そうそう滅多にあることではないので、事に見舞われた当人は大慌てをし、それを例えば法治国家の番人である警察に丸ごと投げたりするわけです。というより、日頃考えたこともないので、事件と言え警察と超短縮回路が働き、丸投げの後イコール解決とってしまうことが多いかもしれません。

なぜなら警察は公僕であって、公僕を養っているのは、納税者である自分なのだから、そういったサービスを受けるのは当然だという理屈です。

一方、丸投げされた警察は「そこまで給料貰ってねえぞ」とまでは言わないまでも「なんもかんも一色単では困る。味噌もクソも一緒ではますます困る」と、持っている権限とそれを履行できる範囲を説明して、自分たちがドラえもんのポケットでもなければどこでもドアでもないことを縷々解き明かしたりもします。

ある意味、両者とも極めて自然な反応で有り、成り行きでもあるのですが、いかんせん求める答えの大きさと、出せる回答の大きさが違いすぎて、方や欲求不満、方や無理難題を押しつけられた被害者の意識になりがちです。つまり、コンセントプラグとソケットの口が最初から合わないのです。

もし、これが平時、冷静なときであれば、自分でできること、相手にしか出来ないのも、先方に依頼すること、それとどちらとも言えないグレーゾーンと、だいたい三つくらいに分けて、相互分担をするのですが、そんなことは端っからぶっ飛んでいるわけですからどだい無理でしょう。

しかし、大きすぎるコンセントプラグを小さすぎるソケットの口にいくら手を換え、品を換えして無理矢理押し込もうとしても、どだい無理なものは無理でしかありません。時間と労力の無駄です。

ならばどうするか？

原理原則から言えば、プラグとソケットの大きさを合わせるしかないことになります。但し、いっぺんにではなく、小分けにして一つずつ合わせるのです。

自分で出来るプラグは自分でするソケットに合わせる。相手にしか出来ないプラグは、相手
が出来る最大口径のソケットの口を空けて貰ってやって貰う。

そうして、最後にグレーゾーンを更に小分けにして、小分け区分のプラグとソケットを一つ
ずつ合わせていく訳です。

しかし、小分けにしたときに、自分の領分でも相手の領分でもないものが出てきます。小分
けにして、再配分、再分担、振り分けや割り付けをしても、なおかつ残ってしまうものが必
ず残ります。

その場合は押し付け合いをあっさり止めて、それ以外の口を探すことです。

喩えていえば、バリアとなる石垣と石垣の間隙間を、おまえが塀を作れ、いや、てめえこ
そ埋め立てろ、と言うのではなく、その石垣をつなぎ合わせる石塊をお互いにどこからか探
してきて、結果、隙間無く防御壁となる石垣をくみ上げることこそが大切だと思うのです。
その石塊をどこから持ってくるかを見つけ出すのが、お互いの智恵と協力関係ではないで
しょうか。

と「ここまで市民は譲歩しているんだぞ！」と、いわゆる「サツ」に言いたいのですが、い
まのところ「サツ」は、全く聞く耳を持ち合わせていません。困ったものです。本当に困っ
たものです。